

沖端水天宮船舞台囃子【おきのはたすいてんぐうふなぶたいばやし】



開催場所

柳川市沖端町

水天宮

開催日

7月21日

【芸能の概要】

沖端水天宮船舞台囃子は、水天宮から殿様屋敷の「御花」までの200mを、川船6隻をつないで、その上に舞台を組み、1隻の大きな「三神丸」と称する船舞台を設ける。この船舞台の上で、芝居と踊りと水天宮囃子を3日間奉納する。役は囃子方、船頭、若衆に分かれて、若衆は船を移動させる。途中、数回船を停止して演奏を行う。囃子の楽器は、三味線、横笛、吊太鼓、締太鼓を使い、演奏曲名は「留り」「上り」「下り」の三楽章より成り立ち、小、中学生が担当して奉納をする。

【芸能の特徴】

1594（文禄3）年に柳河藩主、立花宗茂公により建立された稲荷神社は、文化年間（1804～1818）京都弥劔神社の御分霊と合祀された。その時に沖端の各町は小舟を出して船舞台を造り、余興や囃子を奉納したのが始まりといわれる。

1869（明治2）年、水天宮を合祀すると共に大型の舟による船舞台を造り、これを6隻つないだ船上に乗せて歌舞伎を上演して、船舞台囃子を奉納した。囃子は北原白秋（1885～1942）の時代には子供たちによって演奏されていたとされるが、その後大人たちに継承され、30年程前、再び子供たちによるものとなった。芝居は毎年旅回りの劇団によって上演されている。

【使用する祭具・道具など】

古典的な中に異国情緒豊かなオランダ風の調子。別名オランダ囃子とも呼ばれる。

・アクセス

西鉄バス御花前バス停から徒歩5分

・周辺の観光

白秋記念館、柳川川下り、むつごろうランド
御花・松濤園
白秋記念館、柳川川下り
白秋誕生祭(1月25日)
柳川雛祭り(3月1日～4月3日)

・近くの特産品

いちじく、巨峰、海苔、うなぎ料理

